

# 第20回全日本自動車整備技能競技大会

## 第20回の節目の大会は 福岡整振が通算3度目の優勝

第20回全日本自動車整備技能競技大会が10月10日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開催された。全国53の自動車整備振興会から106人の選手が出場し、2人1組で日本一のメカニックの座を争った。実車競技には初めて軽自動車が使われ、競技時間の扱いについても新たな試みが採り入れられた。大会を制したのは9大会ぶりとなる福岡整振。通算で3回目の優勝だ。選手の谷口修平さん、常岡兼次さんは前回大会で入賞を果たせなかった悔しさをばねに、優勝を勝ち取った。

**実車競技は「N・BOX」  
初めて軽自動車が競技車両に**

全日本自動車整備技能競技大会は1977年に第1回目が開催されてから隔年で開催してきた。第1回大会は千葉中央技能開発センターで開催され、参加したのは35チームだった。閉会式では、第1回大会からすべての大会に参加した8つの自動車

整備振興会を表彰した。競技内容は自動車整備業界を取り巻く環境やメカニックの作業に求められるものを背景に、何度も変更が繰り返されてきた。今回は競技車両にホンダ「N・BOX」が使用された。実車競技に軽自動車が使われるのは初めて。

競技は実車競技、基礎競技、アドバイザー競技の3種目が行われた。来店したユーザーから不具合の状態を聞き取り、それに基づいた故障修理と点検整備、作業後の納車説明を合計90分間で行った。競技の特徴は、この競技時間の配分を選手が自由に設定できること。今回からの新たな試みで、選手には競技の課題だけでなく時間のマネジメントも問われた。

実車競技にはボディ、エンジンそれぞれ4問、計8問の課題が設定された。実車競技に設定された問題を選手が解くと進行状況を示すボードに「てんけんくん」が現れる。そのたびに会場を訪れた全国の自動車整備振興会関係者、出場選手の家族や勤務先の応援団から拍手が沸き起こった。

結果は別表の通り。実車競技



20回目にして初めて、競技車両に軽自動車を使用された



実車競技はスキャンツールを使い、FAINESで整備情報を確認



アドバイザー競技は一般の自動車ユーザーに分かりやすく説明することも求められた



お揃いの格好で選手に声援を送る応援団も競技大会を彩った



高橋克典選手(山形整振)による選手宣誓



第1回大会からすべての大会に参加してきた8整振を特別表彰した

2人でリベンジできたのはうれしかった



福岡整振チーム  
谷口修平さん(右)  
常岡兼次さん(左)

「優勝の率直な感想を」  
谷口さん「一から指導してくださった先生方、地区でバックアップしていただいた方々のおかげだと思つ」  
常岡さん「福岡県自動車整備振興会、同種屋支部の方々の熱心な指導のおかげで優勝できた。支えてくれた家族にも大変感謝している。名前を呼ばれて優勝が現実になったときには、言葉に

できない喜びがあった」

「競技大会を振り返って

谷口さん「時間配分についてはいつも通りにやれた。本番が一番よかったと思う。練習でやっていった問題が出たので、難しくはなかった。ただ、納車説明の質問で何が来るのか心配だった」  
常岡さん「私はどちらかという機械的なことが苦手な面があった。一方で診断機は谷口さんより扱いが慣れている。それぞれのよいところを出していけば優勝できるという思いがあった。前は悔しい思いをしたので、2人でリベンジということでも再挑戦できたのはうれしかった」

「練習で大変だったことは

谷口さん「診断機のデータをみて判断することを日ごろあまりしていない分、(データの)判別が難しかった。勤

めている会社には昭和のクルマが入庫することが多いので、(普段は)診断機はほとんど使っていない」  
常岡さん「練習ではたくさん故障探求をやった。(本番は)1時間半で8カ所の故障という設定で行ったが、練習では同じ時間で12カ所くらい故障探求をやった。時間内では難しいかもしれないけれどと言われながらすべて探求した」

「自動車整備業界を目指す若い人にメッセージを」  
谷口さん「向上心が大切。技術の向上。何でも挑戦することが大事だ」  
常岡さん「私も同じで、新しいことにチャレンジすること。『分からないからやらない』のではなく『分からないから調べてやってみる』。まず、興味を持つことから進めれば、故障探求もやっ

ていくうちに面白くなる」

### 第20回全日本自動車整備技能競技大会 結果

順位	チーム名	得点	選手名	
優勝	福岡整振	970	谷口修平	常岡兼次
準優勝	岐阜整振	951	浅野道昭	丹羽慶一
第3位	島根整振	923	田中賢	小川和良
第4位	兵庫整振	920	山下一志	西山郡胤
第5位	栃木整振	917	植木啓之	山本雅史
第6位	埼玉整振	910	白石信吾	永野雅文
第7位	秋田整振	905	木元崇文	高橋 祐
第8位	愛知整振	888	中村慎吾	濱口慎太

※平均点:778.0点、得点は1000点満点 ※選手名は敬称略

特別表彰	北見整振、岩手整振、東京整振、千葉整振、 栃木整振、愛知整振、広島整振、福岡整振
------	---

の課題を全問回答するチームが20チーム以上あった一方で、優勝した福岡整振と8位の愛知整振で82点の差がつくなど、入賞チーム間でも点差は開いた。橋本昭朗競技・審査副委員長は講評で、基礎競技において測定器の取り扱いの基本がおろそかになっていったケースを指摘。「改めて基本に立ち返る姿勢が必要」とした。またスキャンツールについても「正確な故障診断をするうえで重要」とし、点検整備の作業において診断機のさらなる活用を訴えた。

(小野 大佐)